

# グッチョ

Guccho

／ “何かをし合う” 意味の筑後弁！ ／

“〇〇し合える” まちへ。「支えぐっちょ」「つながりぐっちょ」な人や取り組みを紹介するマガジンです。

VOL.02

担当者コラム  
ほっとけない。他人だけど

／ ちょっと聞いてー！ ／



とある日の昼休みに起こった出来事です。  
こんな人たちが増えればいいなと、豊かな気持ちになるエピソード。公務員って大変なことも多いんですが、こういう幸せに出会えることもあるんです。



日中多くの人が入り出る市役所本庁舎の東側玄関。ここで夫婦と再び顔を合わせた瞬間が忘れられません（写真はイメージ）

## 古くからの客のために市役所へ

久留米市役所は、昼休みも当番職員を決めて窓口を開けています。僕が当番だった日の12時50分。50歳前後の夫婦が窓口に。「少し話を聞いて欲しいのですが」

夫婦は居酒屋経営。古くからの客である高齢夫婦についての相談でした。

「おじいちゃんは数年前に病気をして半身が不自由なのですが、先日、おばあちゃんも脳梗塞で入院することになって」

「今日は、おばあちゃんの健康保険関係の手続きに代理で来たんです。おばあちゃん

はとにかく今後が心配で、病院で聞いたらパニック気味に泣いてばかりだそうです」  
確かに。脳梗塞ならば後遺症が残る可能性はある。おじいちゃんの介護はどうしていくのだろうか。家もエレベーターの無いアパートの4階だそう。そもそも、これからの生活をどうしていけば良いのか。心配になるのも無理はない。

僕はそう感じました。

「こうやって健康保険の手続きとかくらいならしてあげられます。今は店も休業しているし」。でも、そうばかりもいかない。

「結局は他人。病院に行っても身内として面会できるわけでもないし、お店が始まれば自分たちの生活もまた追われ始めます。でも、あの夫婦がどうなっていくのかは心配で。市役所の制度でなんとかできるものがないかと思ってきました」

それならと、長寿支援課に確認すると、包括支援センターが力になれるかもしれないと言う。そこで、6階にある長寿支援課に案内しました。

.....

昼当番を終えた僕は、ランチを何にしようかと、ぼーっと考えながら1階に降りました。そこで先程の夫婦とばったり。夫婦は僕の顔を見るなり「あー」。気づけば僕も、同じタイミングで「どうでしたか！」と言っていました。

この日一番嬉しかったのが、この瞬間でした。2人が僕に結果を伝えようとしてくれたと感じたから。

「さっき包括支援センターのことを詳しく教えてもらったので、何とかなりそうです！」と、嬉しそうにパンフレットをめくると夫婦。

「今から商店街にある包括支援センターに行ってみるんです。これでおばあちゃんが助かると思うなあ」。

.....

「ただけ良い人たちなんだ。代理で市役所に手続きに来て、その後相談で窓口を二つ回った。さらに、これから別の施設に行くという。それでも、常連客のために動いて、頼り先が見つかったと喜んで包括支援センターに向かっている。行きがかり上とはいえ、他人のことにここまで親身になってくれる人がいるなんて」。

僕は心から「そのおばあちゃんは、お二人のような人がいてくれて本当に心強いです。今日はご相談に来てくださってありがとうございます」と言い、夫婦は「いえいえ、ありがとうございます」と笑顔で帰っていった。

こういう気持ちを、もっともっといろんな場所ですくさんの人と感じたい。そう思った火曜日の昼でした。

（担当・フトシ）